地域おこし協力タイムス

現在市で活動している地域おこし協力隊の隊員が交替でお届けします。第６回は「観光化推進員（台湾向け交流促進コーディネーター）」の陳平芸（チンピンユイン）さんです。

台湾新北（シンペイ）市出身の陳平芸です。去年の９月に奥州市に来てから、同じ観光化推進員の小川ちひろさんと一緒に、台湾の家庭料理を楽しむ「台湾食堂」や、台湾ビールで「台湾酒場」などのイベントを行いました。今回は、これから行う予定のイベント二つを紹介します。

①台湾講座

台湾のお茶を飲みながら、台湾の文化や言葉を学んでみませんか。台湾のお菓子といえばパイナップルケーキですが、それ以外の伝統的なお菓子の紹介など、さまざまな話題を考えています。

日時：８月20日㈫　午後３時～４時
場所：らいおん食堂（水沢袋町１－８）
定員：５人（参加費500円）

②バルーンフェスティバル祝福（タイフク）イベント

奥州市の風景が台湾の台東県と似ていると感じたことで思い立ち台東県政府に相談したところ、交流事業が行えることになりました。台東県では2011年から「台湾国際バルーンフェスティバル」という熱気球のイベントを行っていて、毎年夏に数十万人もの来客があります。期間中、街では公園などにイラストや願い事を描いた熱気球ランタンを飾り、フェスティバルを盛り上げています。このランタン（無地）を台東県から数十個いただいていますので、市民の皆さんに絵付けをしてもらって、市内に飾りフェスティバルの雰囲気を感じてもらいたいと思います。

日時：８月18日㈰　午前10時～11時半
場所：水沢地区センター
定員：28人（参加費無料、対象は小学生以上）

▲台東に飾られているランタン

どちらも申込方法など詳しくはFacebook「Walk on Soil（ウォーク オン ソイル）／土と旅と人」をご覧いただくか、メールでお問い合わせください。
（✉pingyun@walkonsoil.jp）

このイベントで台湾をより身近に感じてもらえればうれしいです。台湾講座は今後毎月できればと思っていますし、台東県との交流事業も引き続き考えていきたいです。これからも、奥州市の魅力を台湾の人に情報発信し、台湾の魅力も皆さんに伝えたいと思っていますので、応援よろしくお願いします。

おうしゅう羅針盤（Oshu）

暑さの厳しい日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしですか。

７月27日、28日の両日、カヌージャパンカップが奥州いさわカヌー競技場で開催されました。日本代表を含む選手が全国からエントリーし、市地域おこし協力隊の藤野浩太選手も出場しました。県内外から多くの観客が来場し、激流を華麗なパドルさばきで下る選手に大きな声援を送りました。大変な暑さの中、大会運営にご尽力いただいた関係者の皆さんに感謝申し上げます。同競技場は、全国有数のカヌー競技場として選手や関係者から高い評価を受けています。来年の東京オリンピック事前合宿候補地の誘致に努め、今後もさらなる活用を図ってまいります。

７月９日に、歌舞伎役者の松本幸四郎さんが来奥しました。水沢佐倉河の田んぼアート会場で、ご自身のデザインによる高麗屋（こうらいや）三代を鑑賞されたほか、同実行委員会主催の歓迎行事で市民との交流を深めました。見事に色づいた作品は、今月中旬までが見頃とのことですので、皆さんぜひ足をお運びください。

７月14日に、初夏の恒例イベント、奥州前沢よさこいフェスタが開催されました。市内はもとより県外からも、よさこいチームが集結し、工夫を凝らした創作演舞が披露され、会場は大いに盛り上がりました。参加者、スタッフの皆さん、まちに活気を与えていただき、ありがとうございました。

県中学総体が開催され、前沢中のバドミントン男子、ソフトボール女子の優勝をはじめとして、多くの選手が入賞しました。東北・全国大会でのさらなる活躍を願っています。

奥州市長　小沢昌記

We support the ilc

希望のひかり　第69回

ＩＬＣ（国際リニアコライダー）計画の各種最新情報をお届けします

関係機関の代表が一堂に会して行われたＩＬＣ推進協総会

東北ＩＬＣ推進協議会の総会を開催

東北ＩＬＣ推進協議会は、７月１日、仙台市内で本年度の総会を開きました。総会では、日本政府が海外に対し、早期にＩＬＣの日本誘致に向けた、より明確な意思表示をすることを求める決議を採択したほか、10月に仙台市で開催される国際学会への支援を通じ、世界へ向けて受け入れの熱意を発進することを確認しました。

総会の概要

総会には、共同代表の大野英男東北大総長と高橋宏明東北経済連合会名誉会長、達増拓也知事と村井嘉浩宮城県知事、谷村邦久岩手県国際リニアコライダー推進協議会長、小沢昌記市長や関係市長ら約190人が出席しました。

総会の冒頭で、大野共同代表は、ＩＬＣ計画は本年３月７日に示された政府の関心表明以降着実に前進しているとし、「向こう半年から１年が決定的なヤマ場になる」と結束を呼び掛けました。

総会では、来年５月に策定される欧州素粒子物理戦略に、ＩＬＣ計画が高い評価で位置付けられることが必要であり、そのためには、日本のＩＬＣ誘致に対する明確な意思表明が極めて重要であるとし、日本政府の早期決断を求める決議が採択されました。

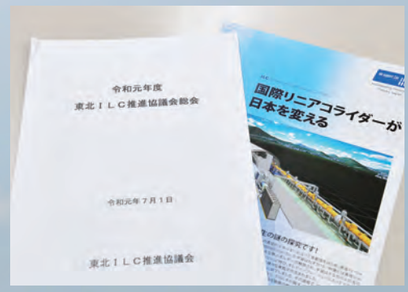
また、達増知事や県内首長、関係団体代表によるＩＬＣ誘致に向けた決意表明が行われ、達増知事は「地方創生のためにも、東日本大震災からの復興のためにも頑張っていこう」、小沢市長は「We're ready for the ILC（ＩＬＣの受け入れ準備は整っている！）」と意気込みを示しました。

また、総会後には、増田寛也元総務相（元岩手県知事）が講演し、「ＩＬＣと地方創生」をテーマに、「ＩＬＣは地方創生の観点で有力なプロジェクト。他の地域・国ではできないことで、有力な武器を持つことになり、地域の魅力度を高めることにつながる」とし、国土計画にＩＬＣを位置付けることが大切だと強調しました。

想定スケジュール

ＩＬＣの誘致実現に向け、「向こう半年から１年が決定的なヤマ場になる」と紹介しました。誘致実現に向けた想定スケジュールは、下表のとおりと見込まれています。

ＩＬＣ実現へ向けた事業計画などが示されました



◆誘致へ向けた想定スケジュール

時　期	内　容
2019年９月	国際的な経費分担や技術的課題などを議論するＫＥＫ（高エネルギー加速器研究機構）の国際ワーキンググループが報告書取りまとめ
2020年１月頃	大型研究計画のあり方について一定の指針を与えることを目的とする「日本学術会議マスタープラン」策定。ＩＬＣ計画がマスタープランに盛り込まれることが非常に重要
2020年５月頃	欧州素粒子物理戦略（2020年～2024年）策定。日本政府の誘致に対する明確な意思表明が極めて重要

■問い合わせ＝本庁ＩＬＣ推進室（☎0197-34-2123、FAX0197-22-2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）